

さいたま 来ぶらり通信

Contents

桜と日本人……………1,2 本棚ぶらり 桜……………3
第18回現代短歌新人賞/桜図書館・桜コーナーの紹介……………4

わがまち

はっけん
Sai 発

桜と日本人



春になると枝いっぱい花を咲かせる桜は、毎年私たちの目を楽しませてくれます。散り際の美しさは、日本人の国民性を象徴しているとも言われ、文学作品などにも数多く取り上げられてきました。今回は、そんな桜の歴史や、さいたま市の桜の名所をご紹介します。



春の景花遊園 豊原国周画 (提供：さいたま市立博物館)

日本の春の代名詞とも言える桜ですが、日本人が桜を特別に愛でるようになったのは、平安時代の貴族たちが始まりと言われています。

奈良時代までは、中国文化の影響を強く受けて、桜よりも中国渡来の梅が愛でられていました。奈良時代の和歌集『万葉集』を見ると、桜の歌は梅の歌の3分の1ほどしかありません。

ところが平安時代になると、遣唐使が廃止され、日本独自の文化が興りました。宮中では、春の花を愛でる花宴が開かれるようになり、桜が歌の題材として盛んに詠まれるようになりました。紀友則が詠んだ、「久方の光のどけき春の日に静心なく花の散るらむ」は、桜を詠んだ有名な歌の1つです。「花」と書いて桜を表すほど、数ある花の中でも桜は特別な存在になったのです。

また、桜の開花は古くから農耕の節目となっていました。農民たちは、春になると飲食物を持って山に入り、そこで1日を過ごしました。冬の神様を山に送り帰して、春の神様を迎える宗教行事であったとも、桜の咲き具合でその年の稲の出来を占う農事であったとも考えられています。

江戸時代に入ると、上野に寛永寺が建てられ、吉野山の桜が移植されました。すると、ここが桜の名所となって、江戸庶民にも花見の習慣が浸透していきました。そして、8代将軍・徳川吉宗が隅田堤(向島)や飛鳥山(王子)、御殿山(品川)などに桜を植樹し、娯楽の場として庶民に開放すると、人々はこぞって花見に出かけるようになりました。町方では、女房や娘たちが、手の込んだ華やかな花見小袖を仕立てて花見に出かけたので、花よりも見事であったそうです。『元延実録』には、上野に身分を問わず人々が集まり、賑やかな花見が行われた様子が記されています。人々の中には、幕をひき、毛氈・花おしろを敷いて酒宴する者や、唄い舞う者もいて、それぞれに花見を楽しみました。

【参考文献等】

『おもしろくてためになる桜の雑学事典』 井筒清次/著 日本実業出版社 2007年
『花見と桜—<日本的なもの>再考—』 白幡洋三郎/著 八坂書房 2015年
『第27回企画展 桜 ~さいたまの桜の景観~』 さいたま市立博物館/編 2016年
『埼玉桜紀行』 大久根茂・神波英夫/写真・文 幹書房 2005年
『ものと人間の文化史137-1 桜I』 有岡利幸/著 法政大学出版局 2007年
『カメラでスケッチさいたまめぐり』 吉口法幸/写真・文 幹書房 2000年
『日本の古典を読む5 古今和歌集新古今和歌集』 小沢正夫・松田成穂・峯村文人/校訂・訳 小学館 2008年

大宮公園HP <http://www.pref.saitama.lg.jp/omiya-park/>

さいたま市の桜

さいたま市は桜を市の花木としており、美しい桜を見られる場所が市内に数多くあります。

今年の春は、今までに行ったことのない場所にも、足を運んでみませんか。

西区 大宮花の丘農林公苑

3.3ヘクタールある花畑では、四季を通じて花を楽しむことができます。桜に加えてチューリップやピオラなどの花々も咲き、春を彩ります。



提供：さいたま市立博物館

桜区 林鐘寺のイトザクラ

山門脇にある桜は、糸のように細い枝を垂らすことからイトザクラと呼ばれています。市指定天然記念物となっており、地元では「在家のサクラ」として親しまれています。



提供：さいたま市立博物館

北区 見晴公園

市民の森・見沼グリーンセンターの南側にある公園です。公園のシンボルである白い風車の周りで、満開の桜と菜の花畑が美しさを競います。



提供：さいたま市立博物館

浦和区 調公園

明治7(1874)年に、調神社の境内地を「偕楽園」と定めたことに始まる公園で、歴史を感じさせる巨木が茂ります。春は桜が咲き乱れ、花見客で賑わいます。

大宮区 大宮公園

明治18(1885)年開園。約1,000本もの桜が植えられ、日本のさくら名所100選にも選ばれた、埼玉県を代表する桜の名所です。



南区 花と緑の散歩道

別所沼公園と武蔵浦和駅を繋ぐ散歩道です。歩道が中央にあり、その両脇に植えられた桜は、満開時には花のトンネルとなって、道行く人を楽しませてくれます。



見沼区 見沼代用水東縁

見沼代用水東縁、西縁、見沼通船堀をつなぐ「見沼田んぼの桜回廊」は、総延長20kmを超え、散策できる日本一の桜回廊です。



緑区 見沼氷川公園

氷川女体神社の南側に位置する公園です。公園の中にある池では、春になると鏡のような水面に映る満開の桜を楽しむことができます。



中央区 与野公園

明治10(1877)年開園。バラの公園として有名ですが、桜の名勝としても知られています。春になると約300本の桜が咲き、花見客で賑わいます。



岩槻区 岩槻城址公園

菖蒲池に架かった、朱塗りの「ハツ橋」の上を歩きながら、桜を眺めることができます。桜まつりでは、ライトアップされた夜桜も楽しめます。



提供：さいたま市立博物館

本棚 ぶらり

★「美味しい櫻 —食べる桜・見る桜・ 知る桜—」

ひらでまこと
平出眞／編著 旭屋出版
2016年



江戸時代中期に花見が庶民の娯楽として広まると、桜の葉を利用した桜餅が生まれました。今や、桜は桜餅だけでなく、様々な食べ物に使われるようになりました。そして、桜を食べ物としても楽しむという日本の文化は、世界でも関心を集めています。

本書は、桜を使った全国各地のスイーツやお酒、料理などを鮮やかな写真を添えて詳しく解説しています。また、桜の図鑑や基礎知識に加え、花見の名所、名桜、桜の歴史などを紹介しており、桜の魅力をいろいろな方向から知ることができます。

人気シェフによる桜を使ったレシピも是非ご活用ください。

★「サクラ図譜」

かわさきてつや おおば ひであき
川崎哲也／画 大場秀章／編
アボック社 2010年



川崎哲也（1929-2002）は、植物学者^{まきのとみたろう}牧野富太郎と京都のサクラ品種収集家の第15代^{さのとうえもん}佐野藤右衛門に師事して、サクラについての指導を受けました。特定の研究機関には属さずに、個人で研究を続け、多数の功績を残しています。また、教員として、旧浦和市の公立中学校で理科と技術科の授業を担当する傍ら、吹奏楽部の顧問を務め、熱心に指導したことでも知られています。

川崎が遺したサクラの写生図をまとめた本書は、図譜としてはもちろん、ボタニカルアートの作品集としても見応えがあります。写生図の中には、旧浦和市で採取されたサクラを描いたものもあります。花びらや葉の先端まで繊細かつ緻密に描画されており、川崎のサクラ研究に対する熱意がうかがえます。

サクラ研究に携わる人も、そうでない人も楽しませてくれる1冊です。

★「チェリー・イングラム 日本の桜を救った イギリス人」

あべなおこ
阿部菜穂子／著 岩波書店
2016年



遠く海を渡ったイギリスに、日本の桜の恩人がいた。大英帝国の末期に活躍した園芸家、コリングウッド・イングラムは、日本の桜をこよなく愛し、自邸の庭園に広大な桜の園を設けました。イギリス中に日本の桜を広めたと言われる彼は、地元の住民から親しみを込めて「チェリー・イングラム」と呼ばれています。

桜を求めて日本を訪れた彼は、明治以降の急速な近代化や染井吉野の席卷で、日本独自の多種多様な桜が消えていこうとする様を目にします。危機感を覚えたイングラムは、日本社会に強い警告を発すると共に、日本では絶えた桜^{たいはく}「太白」を自邸の園から里帰りさせることを決意します。

深い愛情と情熱をもって日本の桜を育成し、イギリスに広めたイングラムの生涯を、両国の歴史の証人となった桜とともに綴ります。

★「桜の下で待っている」

あやせ
彩瀬まる／著 実業之日本社
2015年



——柔らかく美しい指を握りしめて、怯えながら、高く長い橋を行く。

大学生の^{ともや}智也は、同じサークルの年上の先輩と付き合っていますが、サークルを辞めるかもしれない、という彼女の言葉に、心を落ち着けられずにいました。家族の反対を押し切って老いらくの恋に走り、今は宇都宮で暮らす祖母を訪ねた智也は、そこで祖母から前に踏み出す勇気をもらいます。粋な祖母と心優しい孫のやりとりが温かい、「モッコウバラのワンピース」のほか、4つの物語をおさめた、暖かい春の空気が匂い立つ短編集です。

宇都宮、福島、仙台、新花巻…と、北上する桜前線にあわせて、それぞれの土地を舞台に織り成される、ふるさとの物語をお楽しみください。

第18回

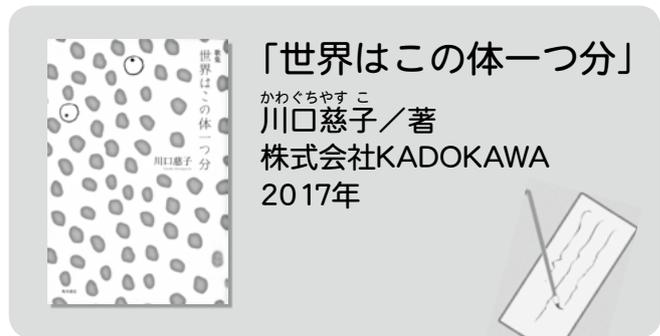
現代短歌 新人賞

さいたま市が主催し、市民の文学活動の充実と日本現代短歌界の振興を目的に、歌壇に新風をもたらす歌人を表彰してきた「現代短歌新人賞」。その第18回受賞作が、川口慈子さんの『世界はこの体一つ分』(角川文化振興財団2017年刊)に決まりました。

「『世界はこの体一つ分』はその新鮮な言語感覚、敏感な感受性、豊かな将来性に惹かれたが、実際は自己を客観化したユーモアに富み、若さなりの生活感もあり、これらが評価されて今回の贈賞となったものである。」(選考委員講評 さいたま市

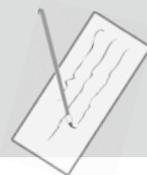
ホームページより)

受賞作品や選考過程については、雑誌「ミセス」2018年3月号(文化出版局)に記事が掲載されます。図書館でも所蔵していますので、ぜひご覧ください。



「世界はこの体一つ分」

かわぐちやすこ
川口慈子／著
株式会社KADOKAWA
2017年



桜区にあるプラザウエストでは、よく見られるソメイヨシノのほか、濃紅色が美しいカンヒザクラ、珍しい淡黄緑色のウコンザクラ、花に芳香があり八重に咲くアマノガワ、地面を鮮やかに彩るシバザクラ(分類上は桜の仲間ではなく、ハナシノブ科の多年草)など、11種類の桜を植えています。いろいろな種類の桜を見比べてみてください。

また、プラザウエスト内にある桜図書館では、

1階に桜コーナーを設けて桜とサクラソウに関する本やDVDなどの資料を収集しています。

資料は閲覧・貸出できます。桜区で桜を楽しんだ際は、ぜひ桜図書館へもお立ち寄りください。



桜図書館 桜コーナー



東浦和図書館・岩槻図書館・北浦和図書館・大宮西部図書館三橋分館は、施設修繕のため休館していましたが、4月1日(北浦和図書館は3月20日)より、開館します。ご利用の皆様にはご迷惑をおかけいたしました。今後ともさいたま市図書館をよろしくお願いいたします。

編集：さいたままぶらり通信編集委員会 発行：さいたま市図書館

<https://www.lib.city.saitama.jp/> 携帯電話用 <https://www.lib.city.saitama.jp/m/> (下のQRコードを読み込んでください)

北浦和図書館 832-2321	馬宮図書館 625-8831	与野図書館 853-7816	桜図書館 858-9090
東浦和図書館 875-9977	三橋分館 625-4319	与野南図書館 855-3735	大久保東分館 853-7100
美園図書館 764-9610	春野図書館 687-8301	西分館 854-8636	北図書館 669-6111
大宮図書館 643-3701	大宮東図書館 688-1434	岩槻図書館 757-2523	宮原図書館 662-5401
桜木図書館 649-5871	七里図書館 682-3248	岩槻駅東口図書館 758-3200	武蔵浦和図書館 844-7210
大宮西部図書館 664-4946	片柳図書館 682-1222	岩槻東部図書館 756-6665	南浦和図書館 862-8568

事務局：中央図書館 浦和区東高砂町11-1 TEL 048-871-2100

★★編集後記★★

ソメイヨシノの名前は、江戸の染井村にちなんでつけられました。

次回発行予定：8月15日(年3回発行)



もっと身近に、
もっとしあわせに

